

第二章 家庭ごみ分別早見表等の特徴

2-1 はじめに

本章では、家庭ごみ分別早見表等を収集・分類し、それぞれの特徴を把握する。

2-2 目的

本章では、家庭ごみ分別早見表等のそれぞれの特徴を把握することを目的とする。

2-3 調査方法

2-3-1 調査対象地

調査対象地は国内の全 788 市の中から無作為抽出によって選択された 150 市とする。表 2-1 にその一覧を示す。

表 2-1 調査対象地一覧

都道府県	市名	都道府県	市名	都道府県	市名	都道府県	市名	都道府県	市名	都道府県	市名			
1	北海道	小樽市	31	埼玉県	八潮市	61	福井県	小浜市	91	滋賀県	大津市	121	山口県	光市
2		帯広市	32		蓮田市	62		鯖江市	92		彦根市	122		徳島県
3		岩見沢市	33	千葉県	茂原市	63	山梨県	甲府市	93	京都市	123	阿南市		
4		紋別市	34		東金市	64		長野県	須坂市		94	舞鶴市	124	
5		名寄市	35		浦安市	65	塩尻市		95	綾部市	125	三好市		
6		登別市	36		印西市	66	千曲市	96	宇治市	126	香川県	高松市		
7	青森県	黒石市	37	東京都	青梅市	67	岐阜県	岐阜市	97	香川県	観音寺市			
8	岩手県	花巻市	38		調布市	68		中津川市	98		木津川市	128	愛媛県	今治市
9		奥州市	39		小金井市	69	山県市	99	池田市	129	八幡浜市			
10	宮城県	白石市	40		福生市	70	本巢市	100	枚方市	130	高知県	高知市		
11	秋田県	角田市	41	東大和市	71	静岡県	浜松市	101	大阪府	寝屋川市		131	南国市	
12		秋田市	42	多摩市	72		沼津市	102		門真市	132	四万十市		
13		大館市	43	羽村市	73		熱海市	103	泉南市	133	福岡県	福岡市		
14		仙北市	44	あきる野市	74		富士宮市	104	四條畷市	134		田川市		
15	山形県	東根市	45	西東京市	75	磐田市	105	阪南市	135	柳川市				
16	福島県	二本松市	46	神奈川県	川崎市	76	御殿場市	106	兵庫県	三木市		136	行橋市	
17	茨城県	土浦市	47		鎌倉市	77	裾野市	107		川西市	137	筑紫野市		
18		常陸太田市	48		伊勢原市	78	湖西市	108	加西市	138	太宰府市			
19		守谷市	49		座間市	79	伊豆市	109	たつの市	139	みやま市			
20		つくばみらい市	50	南足柄市	80	岡崎市	110	奈良県	奈良市	140	佐賀県	武雄市		
21	栃木県	宇都宮市	51	長岡市	81	一宮市	111		天理市	141	長崎県	長崎市		
22		栃木市	52	十日町市	82	春日井市	112	御所市	142	西海市				
23		那須烏山市	53	新潟県	村上市	83	愛知県	津島市	113	和歌山県	御坊市	143	熊本県	人吉市
24		下野市	54		燕市	84		豊田市	114		紀の川市	144		熊本市
25	群馬県	高崎市	55	糸魚川市	85	新城市	115	鳥取県	米子市	145	阿蘇市			
26	埼玉県	川口市	56	富山県	富山市	86	岡山県	岩倉市	116	岡山県	総社市	146	大分県	別府市
27		飯能市	57		砺波市	87		愛西市	117		瀬戸内市	147		宮崎県
28		加須市	58		南砺市	88	長久手市	118	広島県	三原市	148	鹿児島県	阿久根市	
29		入間市	59		羽咋市	89	四日市市	119		三次市	149		指宿市	
30		朝霞市	60	石川県	野々市市	90	三重県	名張市	120	東広島市	150	沖縄県	那覇市	

2-3-2 早見表等の収集方法

各調査対象地の家庭ごみ分別早見表等は、それぞれの市のホームページから収集した。なお、市町村合併が行われ地区ごとに早見表等が異なる場合は、合併前の人口が最も多い

地区が使用している早見表等を調査した。市のホームページに掲載されていなかった場合、また全ての早見表等を掲載していないと判断できる市については、郵送にて送付を依頼し、入手した。入手方法の市数について、表 2-2 に示す。

表 2-2 早見表等の入手方法とその割合

入手方法	市数	割合 (%)
各市のHP	125	83.3
郵送	17	11.3
返送なし	8	5.3

表 2-2 より、ホームページから入手できたのは 125 市、郵送にて入手できたのは 17 市であった。「返送なし」の 8 市は、ホームページに掲載されておらず、郵送でも入手できなかった市である。これらの市については、不十分だとは考えられるが、ホームページに記載された情報について調査を進める。

2-3-3 調査方法

表 2-3 の項目に従い、各調査対象地の家庭ごみ分別早見表等の特徴を分類する。

表 2-3 家庭ごみ分別早見表等の特徴を分類する項目

項目	評価項目	
インターネット検索機能の有無	あり	なし
「早見表」の有無	あり	なし
ポスターの有無	あり	なし
外国語版の有無、数	あり	なし
外国語版の数	いくつあるか	
ごみの掲載数	いくつあるか	
50音順	あり	なし
絵・写真の有無	あり	なし
絵・写真が効果的か	効果的	効果的でない
区分ごとの色分けの有無	あり	なし
品目ごとの注意事項の有無	あり	なし
収集できないごみの排出方法	あり	なし
品目の表示方法	商品名	品目名
複数名の掲載方法	両方から	どちらかのみ
検索可能方法	複数あるか	ひとつだけ

各項目の説明については、調査結果と共に記載する。

2-4 調査結果

2-4-1 早見表等の種類・形態

インターネット検索の有無，早見表の有無，ポスターの有無，外国語版の有無について述べる。

「インターネット検索機能」とは，インターネット上にごみの名前を打ち込み，そのごみの分別区分がわかるような仕組みである。

「早見表」とは，ごみが並び方を問わず並んでいる表を意味する。

「ポスター」とは，大きさを問わず片面1枚，両面1枚，片面2枚までに情報をまとめたものを意味する。

表 2-4 にインターネット検索機能の有無，早見表の有無，ポスターの有無，外国語版の早見表等の有無を示す。

表 2-4 インターネット検索機能の有無，早見表の有無，ポスターの有無，外国語版の早見表等の有無

	あり		なし	
	市数	割合(%)	市数	割合(%)
インターネット検索機能の有無	8	5.3	142	94.7
「早見表」の有無	125	83.3	25	16.7
ポスターの有無	91	60.7	59	39.3
外国語版の有無	37	24.7	113	75.3

表 2-4 より，インターネット検索機能はありが 8 市，なしが 142 市で 94.7%の市では作成していなかった。

早見表は，ありが 125 市，なしが 25 市で，83.3%の市が作成していた。早見表のない 25 市中 20 市は，ポスター状のごみ分別一覧表を作成していた。

ポスターは，ありが 91 市，なしが 59 市であった。作成している市は 60.7%であった。

外国語版の早見表等は，ありが 37 市，なしが 113 市だった。表 2-5 に外国版早見表等の表の数の割合，表 2-6 に外国語版早見表等の内訳を示す。

表 2-5 外国語版早見表等の数(n=36)

表の数	市の数	割合(%)
1	2	5.6
2	2	5.6
3	18	50.0
4	4	11.1
5	7	19.4
6	3	8.3

表 2-6 外国語版早見表等の内訳(n=36)

	数	率
英語	34	94.4
中国語	31	86.1
ポルトガル語	24	66.7
韓国語	18	50.0
スペイン語	12	33.3
タガログ語	4	11.1
タイ語	1	2.8
ベトナム語	1	2.8

表 2-5 より，外国語版早見表等の作成数は 3 つが 50% で最多であり，多くの市は 3～5 つ作成している．表 2-6 より，外国語版を作成しているほとんどの市が英語版を作成しており，中国語，ポルトガル語と続く．

2-4-2 ごみの掲載数

ごみの掲載数について述べる．

「ごみの掲載数」は，その市の家庭ごみ分別早見表等に掲載されている，すべてのごみの名称を合計した数である．ただし，重複は除く．

ごみの掲載数の調査時のルールを表 2-7 に，調査対象地のごみの掲載数を表 2-8 に，ごみの掲載数の割合を表 2-9 に示す．

表 2-7 ごみの掲載の調査時のルール

記述	数え方
品目名(素材)	品目数×素材数
例: 編み針(竹、プラスチック製)	1×2=2
大きさごとに排出方法が異なる	それぞれを1
例: 板(40cm以下、40～140cm、140cmを超えるもの)	3
品目名(ただし、「条件」の場合は「〇ごみ」、「問い合わせ」)	それぞれを1
例: おひつ(ただし、金属のついたものは不燃)	2
品目名(「素材」部分は収集しない)	品目数

表 2-8 調査対象地のごみの掲載数

小樽市	1173	八潮市	162	小浜市	1139	大津市	759	光市	1251
帯広市	1524	蓮田市	105	鯖江市	503	彦根市	646	小松島市	219
岩見沢市	101	茂原市	104	甲府市	1306	京都市	861	阿南市	235
紋別市	2099	東金市	86	須坂市	356	舞鶴市	75	美馬市	383
名寄市	109	浦安市	628	塩尻市	615	綾部市	1035	三好市	580
登別市	2267	印西市	400	千曲市	247	宇治市	148	高松市	732
黒石市	112	青梅市	2770	岐阜市	241	南丹市	602	観音寺市	39
花巻市	205	調布市	199	中津川市	730	木津川市	360	今治市	1107
奥州市	121	小金井市	1353	山県市	215	池田市	330	八幡浜市	1122
白石市	1172	福生市	1931	本巢市	209	枚方市	101	高知市	575
角田市	1172	東大和市	712	浜松市	107	寝屋川市	382	南国市	575
秋田市	783	多摩市	1988	沼津市	551	門真市	254	四万十市	82
大館市	661	羽村市	1889	熱海市	101	泉南市	128	福岡市	140
仙北市	156	あきる野市	1198	富士宮市	367	四條畷市	326	田川市	1035
東根市	1164	西東京市	1326	磐田市	1163	阪南市	580	柳川市	135
二本松市	612	川崎市	235	御殿場市	1010	三木市	825	行橋市	115
土浦市	541	鎌倉市	540	裾野市	613	川西市	1892	筑紫野市	70
常陸太田市	713	伊勢原市	532	湖西市	204	加西市	613	太宰府市	483
守谷市	1446	座間市	356	伊豆市	603	たつの市	118	みやま市	151
つくばみらい市	1292	南足柄市	246	岡崎市	453	奈良市	754	武雄市	183
宇都宮市	752	長岡市	670	一宮市	619	天理市	622	長崎市	436
栃木市	401	十日町市	1209	春日井市	320	御所市	108	西海市	681
那須烏山市	1135	村上市	533	津島市	794	御坊市	1212	人吉市	333
下野市	932	燕市	1097	豊田市	1141	紀の川市	574	水俣市	1221
高崎市	76	糸魚川市	811	新城市	443	米子市	888	阿蘇市	510
川口市	1104	富山市	477	岩倉市	773	総社市	347	別府市	652
飯能市	878	砺波市	1206	愛西市	954	瀬戸内市	73	宮崎市	1298
加須市	165	南砺市	1206	あま市	52	三原市	689	阿久根市	772
入間市	976	羽咋市	689	四日市市	776	三次市	2127	指宿市	104
朝霞市	1152	野々市市	765	名張市	1233	東広島市	1137	那覇市	650

表 2-9 ごみの掲載数の割合(n=150)

掲載数	市数	率(%)
2000～	4	2.7
1800～1999	4	2.7
1600～1799	0	0.0
1400～1599	2	1.3
1200～1399	12	8.0
1000～1199	18	12.0
800～999	8	5.3
600～799	30	20.0
400～599	19	12.7
200～399	22	14.7
100～199	24	16.0
1～99	7	4.7

表 2-8, 表 2-9 より, ごみの掲載数の最大は東京都青梅市で 2770 個, 最小は香川県観音寺市で 39 個, 平均は 684.6 個である. 掲載数 2000 以上は 4 市, 100 未満は 7 市だった. 以上から, ごみの掲載数は市によって大きく差があるが 1000 を超えるのは 40 市で全体の約 27% であり, 全体の約 63.3% は 100～799 の間に収まることがわかる.

2-4-3 早見表のごみの並べ方

早見表のごみが 50 音順に並んでいるか、その他の順に並んでいるかについて述べる。

「50 音順に並んでいるか」とは、ごみの並び方が 50 音順であるかを調査する。

表 2-10 に早見表のごみの並べ方を示す。なおこれらの項目は家庭ごみ分別早見表について調査を行なう。早見表を有する市は 124 市である。

表 2-10 早見表のごみの並べ方(n=119)

	並んでいる		並んでいない		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
50音順に並んでいるか	124	99.2	1	0.8	125
その他の順に並んでいるか	10	8.0	115	92.0	125

表 2-10 より、50 音順に並べている市は 125 市中 124 市であり、1 市を除き作成していた。またその他の順に並べている市は 125 市中 10 市で、8.0%であった。その他の順とは具体的には、ごみの区分ごとが 8 市、品目のグループ別が 1 市、順不同が 1 市であった。その他の順に並べている市と比較し、50 音順に並べている市は著しく多いといえる。また、その他の順に並んでいる 8 市のうち 7 市は、50 音順にも並べている。このことから、早見表のごみの並べ方は 50 音順が多く、その理由は 50 音順がわかりやすいと考えられているためだと予想される。

2-4-4 早見表等の外観

絵・写真の有無、絵・写真が効果的か、区分ごとの色分けの有無について述べる。

「絵・写真が効果的か」とは、早見表等に挿入されている絵・写真が効果的かを調査する。効果的かの評価は、場所、材質により区分が異なる場合、それが判断できるかで行う。

「区分ごとの色分けの有無」とは、早見表の品目名が区分ごとに色分けされているかを調査する。

表 2-11 に絵・写真の有無、絵・写真が効果的か、区分ごとの色分けの有無を示す。

表 2-11 絵・写真の有無、絵・写真が効果的か、区分ごとの色分けの有無

	あり		なし		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
絵・写真の有無	145	96.7	5	3.3	150
絵・写真が効果的か	35	24.1	109	75.2	145
区分ごとの色分け	65	52.0	59	47.2	125

表 2-11 より、早見表等に絵・写真がある市は 145 市で 96.7%にあたるが、そのうち効果的な絵・写真がある市は 145 市中 35 市で 24.1%にまで減少する。このことから、多くの市が絵・写真を掲載しているもののそのほとんどは挿絵の位置づけであるといえる。また区

分ごとの色分けについては 65 市が行っていた。これらは住民にとって視覚的にわかりやすく、またとっつきやすくするための工夫だと考えられる。

2-4-5 詳細なルールの記載

品目ごとの注意事項の有無，収集できないごみの排出方法について述べる。

「収集できないごみの排出方法」とは，市で収集できないごみの排出方法や排出先を示しているかを調査する。

表 2-12 に詳細なルールの記載の有無を示す。なお品目ごとの注意事項の有無については，家庭ごみ分別早見表について調査を行う。早見表を有する市は 125 市である。

表 2-12 詳細なルールの記載の有無

	あり		なし		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
品目ごとの注意事項	112	89.6	13	10.4	125
収集できないごみの排出方法	148	98.7	2	1.3	150
家電リサ法対象品目の排出方法	115	76.7	35	23.3	150

表 2-12 より，品目ごとの注意事項を記載している市は 125 市中 112 市で 89.6%である。注意事項の量や詳しさに差はあるものの，ほとんどの市では品目ごとに注意事項を記載している。家電リサイクル法対象品目の排出方法を記載している市は 115 市である。また収集できないごみの排出方法を記載している市は，150 市中 148 市で 98.7%である。収集できないごみについての記載内容を表 2-13 に示す。

表 2-13 収集できないごみについての記載内容

	全てあり		一部あり		なし		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
品目ごとの問合せ先の詳細	5	3.4	25	16.9	118	79.7	148
品目ごとの排出方法	1	0.7	11	7.4	136	91.9	148

表 2-13 より，収集できないごみの記載内容としては，排出先・連絡先等の問合せ先の詳細，品目ごとの細かな排出方法である。しかし 79.7%に当たる 118 市では「各販売店に問い合わせる」という旨の記載のみであった。排出先の記載がなくては，市民はどこに・どのように問い合わせればよいのか，また排出すればよいのか分からない。その結果，市への問い合わせの増加にもつながると考えられるため，排出先の連絡先等の記載は重要であると考えられる。

2-4-6 品目名の表示方法

品目名の表示方法，複数名の掲載方法，検索可能方法について述べる。

「品目の表示方法」とは，例えば「ステープラー(ホッチキス)」の場合，一般名称であ

るステープラーを掲載しているのか、商品名であるホッチキスを掲載しているのかを調査する。

「複数名の掲載方法」とは、商品名なども含め名前が複数ある場合、複数掲載しているかを調査する。

「検索可能方法」とは、複数の名前を掲載している場合、両方の名前から検索が可能かを調査する。

表 2-14 に品目名の表示方法、表 2-15 に複数名がある場合の掲載方法、表 2-16 に複数名がある場合の検索可能方法を示す。なおこれらの項目は家庭ごみ分別早見表について調査を行なう。早見表を有する市は 125 市である。

表 2-14 早見表の品目の表示方法

	一般名称		商品名		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
品目の表示方法	72	57.6	53	42.4	125

表 2-15 複数名がある場合の掲載方法

	複数掲載		単数		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
複数名の掲載方法	60	48.0	65	52.0	125

表 2-16 複数名がある場合の検索可能方法

	複数から可		どちらかのみ		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
検索可能方法	40	66.7	20	33.3	60

表 2-14 より、品目の表示方法は、一般名称が 72 市、商品名が 53 市である。商標の問題があるためか、商品名で掲載している市より一般名称で掲載している市が多い。しかし市民は商品名で検索する機会が多いと考えられるため、市民にとっては使いづらさを感じる恐れがある。複数名がある場合の掲載方法は、複数掲載している市が 60 市、1 つの名前のみを掲載している市が 65 市である。複数名がある場合の検索可能方法は、複数から検索できる市が 40 市、どちらかからのみ検索できるのが 20 市である。

2-5 まとめ

本章では、家庭ごみ分別早見表等を収集・分類し、それぞれの特徴の把握を行った。

早見表等の種類・形態は、早見表を作成している市が 125 市、ポスター状のものを作成している市が 91 市、インターネット上の検索システムを作成している市が 8 市、外国版の

早見表等を作成している市が 37 市であった。

ごみの掲載数は、最大が 2770 個、最小が 39 個であり、平均は 684.6 個であった。また、2000 個以上掲載している市は 4 市、100 に満たない市は 5 市であった。

早見表のごみの並べ方は、50 音順に並べている市が 125 市中 124 市であった。50 音順以外の並べ方で並べているのは 125 市中 10 市で、具体的には、ごみの区分ごとが 8 市、品目のグループ別が 1 市、順不同が 1 市であった。

早見表等の外観は、絵・写真を掲載している市は 145 市であった。しかし効果的だと考えられる絵を掲載している市は 145 市中 35 市である。また、早見表についてごみの区分ごとに品目名の色を分けている市は 125 市中 65 市であった。

詳細なルールの記載は、品目ごとの詳細なルールを記載している市が 125 市中 112 市、収集できないごみの排出方法を記載している市は 150 市中 148 市、家電リサイクル法対象品目の排出方法を記載している市は 115 市であった。収集できないごみの排出方法を記載している 148 市のうち、問い合わせ先を記載している市は 30 市、品目ごとの排出方法を記載している市は 12 市であり、他市は各販売店に問い合わせる旨の記載のみであった。

品目名の表示方法は、一般名称で掲載している市が 72 市、商品名で掲載している市が 53 市であった。複数名がある場合の表示方法は、複数掲載している市が 60 市、一つのみ掲載している市が 65 市であった。複数名を掲載している場合の検索可能方法は、両方からの検索が可能な市は 40 市、どちらかからしか検索ができない市が 20 市であった。

第三章 家庭ごみ分別早見表等作成・改訂経緯の把握

3-1 はじめに

本章では、各調査対象地へのアンケート調査によって、家庭ごみ分別早見表等が作成された経緯、また改訂される経緯を把握する。

3-2 目的

本章では、各調査対象地の家庭ごみ分別早見表等が作成された経緯、また改訂される経緯を把握することを目的とする。

3-3 調査方法

調査対象地である 150 市の担当者にメールまたは郵送にてアンケート票を配布する(2013 年 8 月 22 日～10 月 30 日に実施)。

3-4 アンケート調査内容

作成したアンケート票の各質問項目の質問内容、回答方法、有効回答数を表 3-1 に示す。アンケート票そのものは、付録に掲載する。

表 3-1 アンケートの質問内容・回答方法・有効回答数

項目番号	質問内容	回答方式	有効回答
A. 回答者に関する質問			
1	最初の早見表等の作成者か	選択式	n=97
2	当時の作成者に回答を依頼できるか	選択式	n=91
B. 作成経緯に関する質問(最初の早見表等について)			
3	作成した理由	選択式(複数選択可)	n=30
4	形式・内容	記述式	n=28
5	作成した年度	記述式	n=29
6	作成に関わった人	選択式(複数選択可)	n=29
7	作成に関わった人数	記述式	n=26
8	作成に要した期間	記述式	n=25
9	参考にしたもの	選択式(複数選択可)	n=30
10	どのように参考にしたか	選択式(複数選択可)	n=20
11	市民の声の活用方法	選択式(複数選択可)	n=15
12	掲載ごみの選定方法	記述式	n=25
13	工夫した点	選択式(複数選択可)	n=23
14	苦労した点	選択式(複数選択可)	n=26
15	作成前と比較した時の効果	選択式(複数選択可)	n=28
C. 改訂経緯に関する質問(現在使用されている早見表等について)			
16	改訂時期・頻度	選択式(複数選択可)	n=97
17	改訂を重ね、どう変化してきたか	記述式	n=86
18	市民への配布方法	選択式(複数選択可)	n=97
D. 早見表等の内容に関する質問			
19	市民からの意見・要望・質問	記述式	n=52
20	市民から好評・不評な部分	記述式	n=46
21	今後の課題	記述式	n=73

質問項目は大きく4つに分けられる。1つ目は「回答者に関する質問」、2つ目は「作成経緯に関する質問」、3つ目は「改訂経緯に関する質問」、4つ目は「早見表等の内容に関する質問」である。なお、回答内容が似た意味の場合、記述は省き回答内容の末尾の括弧内に回答した市の数を記載した。

3-5 調査結果

3-5-1 回答率

150市中97市から回答があり、回答率は64.7%だった。ただし作成経緯に関する質問は回答が作成当時の担当者に限られるため、回答数は30市と少なくなっている。

3-5-2 回答者に関する質問

回答者に関する質問について、回答を表3-2に示す。

表3-2 回答者に関する質問(n=97)

質問内容	はい	いいえ
最初の早見表等の作成者か	6	91
当時の作成者に回答を依頼できるか	24	67

表3-2より、以下の、作成経緯に関する質問に回答可能な市は30市(=6+24)となる。

3-5-3 作成経緯

早見表等の作成の理由を表3-3、早見表等を作成した年度を表3-4に示す。

表3-3 早見表等の作成の理由(n=30)

作成の理由	具体例	回答数	率(%)
分別が市民にとって難しい		18	60.0
問い合わせが多い		14	46.7
分別状況が悪かった		5	16.7
その他	市町村合併に伴う分別方法の統一のため(3)	16	53.3
	分別区分が見直されたため(3)		
	家庭ごみ有料化に伴うルール変更のため(2)		
	市民に正しい分別方法を周知するため(2)		
	容器包装の分別回収に伴い分別が複雑化したため		
	新たな処理施設の稼働に伴うルール変更のため		
	職員間での情報共有のため		
他の自治体で作成事例があったため			

表 3-4 早見表等を作成した年度(n=28)

作成年度	回答数	率(%)
1995~1999年	3	10.3
2000~2004年	10	34.5
2005年~2009年	10	34.5
2010年~2013年	6	20.7

表 3-3 より、「分別が市民にとっては難しいと感じるため」、「分別に関する問い合わせが多いため」、「その他」が多い。「その他」では、市町村合併や家庭ごみ有料化に伴う分別区分の変更や、他自治体での作成事例が理由として挙げられた。表 3-4 より、作成した年度は「2003～2005年」が最多であった。

3-5-4 作成当初の状況

早見表等の作成に関わった人を表 3-5、早見表等の作成に関わった人数を表 3-6、早見表等の作成に要した期間を表 3-7 に示す。

表 3-5 早見表等の作成に関わった人(n=29)

作成に関わった人	回答数	率(%)
役所内の担当者	29	100
デザイン等の業者	4	13.8
市民	2	6.9
その他	3	10.3

表 3-6 早見表等の作成に関わった人数(n=26)

作成に関わった人数	回答数	率(%)
1~5人	18	69.2
6~10人	5	19.2
課員全員	1	3.8
15人(原案1人, 確認14人)	1	3.8
約40人	1	3.8

表 3-7 早見表等の作成に要した期間(n=25)

作成に要した期間	回答数	率(%)
0.5~3カ月	15	60
4~6カ月	5	20
7カ月~	5	20

表 3-5 より、作成に関わった人物として「役所内の担当者」以外を回答している市は 9 市であるため、ほとんどの市は「役所内の担当者」のみで作成している。また、「その他」では廃

棄物減量等推進審議会委員，清掃工場職員，収集委託業者など廃棄物の専門家が挙げられた。

表 3-6 より，作成に関わった人数は「1～5 人」が半数以上を占めているため，少ない人数で作成に当たっていることがわかる。

表 3-7 より，作成に要した期間は「0.5 ヶ月～3 ヶ月」が半数以上を占めているため，短い期間で作成に当たっていることがわかる。

3-5-5 作成の方法

早見表等の作成の際に参考にしたものを表 3-8 に，どのように参考にしたかを表 3-9 に，市民の声の活用方法を表 3-10 に示す。

表 3-8 早見表等の作成の際に参考にしたもの(n=30)

参考にしたもの	回答数	率(%)
他市の表	22	73.3
市民の声	15	50.0
その他	6	20.0
特になし	4	13.3

表 3-9 参考にした点(n=20)

参考にした点	回答数	率(%)
内容・構成	15	75
ごみの品目	15	75
デザイン・レイアウト	7	35
その他	0	0

表 3-10 市民の声の活用方法(n=15)

市民の声の活用方法	回答数	率(%)
問い合わせが多いごみを掲載	13	86.7
メールなどで意見を募集	0	0.0
ワークショップなどを開催	0	0.0
その他	4	26.7

表 3-8 より，多くの市では「他市の表」や「市民の声」を参考に，早見表等を作成していることがわかった。なかでも参考に行っている点は，表 3-9 より「内容・構成」「ごみの品目」であった。さらに市民の声の活用方法は，表 3-10 より「問い合わせが多いごみを掲載」であった。

3-5-6 作成時の工夫・苦勞

作成時に工夫した点を表 3-11 に、苦勞した点を表 3-12 に示す。

表 3-11 工夫した点(n=23)

工夫した点	具体例	筆者による分類	回答数	率(%)
ものの呼び方	通常使用されている呼び方を掲載(2)		10	43.5
	複数の呼び方がある場合、呼び方ごとに全て掲載(2) (押しピンと画鋏、かなづちとトンカチなど)			
	メーカー独自の商品名が浸透している場合、両方掲載 (ハンガーと衣紋がけ、メジャーと巻尺など)			
ごみの種類	当初はアタン板を掲載、現在はトタン板に統一		3	13.0
	生活に密着したごみ			
その他	なるべく視覚でわかるように、イラストを使用(2)	見た目	13	56.5
	指定ごみ袋と同じ色で区分を表示、指定ごみ袋の種類を掲載(2)			
	裏面に情報を掲載する際、めくると見やすい方向にしてある			
	市民の立場から見たわかりやすさに留意	使いやすさ		
	50音順に掲載した			
	暮らしの用途別に品目をまとめた			
	探しやすいよう、グループ別索引を作成			
	Yes/Noチャートを掲載			
	分け方・出し方にポイントを置いた冊子を作成			
	分け方、出し方、注意点等全体にストーリー性をもたせた	内容		
	問い合わせ頻度に即したものとした			
	索引用インデックスの作成			
	備考欄を設け、素材・大きさによる分別区分の違いを明記(2)			
	身の回りにあるもの+分別が難しいものを多数掲載			
	スーパー、ホームセンターなどに出向き、商品を調査			
外国語版を作成				
注意事項の掲載				
容器包装を含む場合、複合素材材質が違う場合、素材ごとに記載 (コップ～プラ製=燃やすごみ、金属=燃やさないごみ)				

表 3-12 苦勞した点(n=26)

苦勞した点	具体例	回答数	率(%)
品目の選出		19	73.1
分別基準の設定		14	53.8
その他	文字の情報量をなるべく減らすこと	8	30.8
	分別品目の統一(旧市町村でばらばらだったため)		
	簡易で明瞭な言葉遣い、表現		
	写真の撮影		
	商品名(タキロン、サランラップなど)が定着し、一般的な名称が伝わらない場合がある(製造会社からのクレームあり)		
	レイアウト、配色		
	限られた予算、ページの中での作成		
品目ごとの排出前の処理方法、排出できる大きさ等詳細な説明を明瞭簡潔に掲載すること			

表 3-11 より、工夫した点で最も多いのは「ものの呼び方」で、具体的には通常使用する呼び方・メーカー独自の商品名を掲載する、複数の呼び名がある場合は全て掲載するという回答が多かった。「その他」では、イラストの使用や指定ごみ袋と同じ色で区分を表示するなどの見た目に関する点、5ごみの品目を暮らしの用途別にまとめるや Yes/No チャートを作成するなどの使いやすさに関する点、材質による区分の違いを明記する、外国語版を作成するなど内

容に関することの大きく3つに分けられ、内容は多種多様であった。

表3-12より、苦勞した点で最も多いのは「品目の選出」であった。また半数近い市が「分別基準の設定」も選択している。「その他」では文字をなるべく減らす、サランラップ等商品名が定着しすぎており名称では伝わらない、製造会社からのクレーム、限られた予算・ページ内での作成などの回答があった。

以上から、市によって工夫した点は多種多様であるが、苦勞した点にはある程度共通点があるといえる。このことから、苦勞した点に対する工夫した点を共有することは効果的であると考えられる。

3-5-7 早見表等作成の効果

早見表等作成前と比較した時の効果について、表3-13に示す。

表3-13 早見表等作成前と比較したときの効果(n=28)

作成前と比較した時の効果	具体例	回答数	率(%)
問い合わせの減少		18	64.3
分別状況の改善		15	53.6
効果は感じない		1	3.6
その他	分別方法がわかりやすくなった(2)	9	32.1
	問い合わせ時に見てもらいながら説明できる(2)		
	職員の情報共有により、市民に対して同一の案内が可能		
	品目自体に対する質問が増えた		
	分別の移行がスムーズにできた		

表3-13より、28市中27市の担当者が作成の効果を感じており、具体的には「(市民からの)問い合わせの減少」が18市で最多であった。また分別状況が改善したという回答も15市と多くの市が回答している。その他意見としては、職員間で情報が共有でき市民へ同一の案内が可能になった、電話での問い合わせ時に市民に見てもらいながら説明できるといった回答があった。以上から、早見表等の作成は問い合わせの減少など直接的効果の他、職員間での情報の共有化など間接的効果も期待できると考えられる。

3-5-8 改訂

早見表等の改訂頻度・時期を表 3-14 に示す。

表 3-14 早見表等の改訂経緯・時期(n=97)

改訂時期・頻度	具体例	回答数	率(%)
分別区分の変更時		55	56.7
変更点が多くなったら		34	35.1
数年ごとに		22	22.7
改訂しない		1	1.0
その他	制度や分別区分の変更や、内容の変更があった場合 (3) 定期的に必要冊数を増刷しており、その際に修正 (3) 配布在庫がなくなったら (2) 新たな品目が発生した場合 審議会などの答申を受けて 効果的な市民周知をできるタイミングであるかどうか ごみ分別情報が記載してある市民生活ガイド(他部署が所管)が改訂発行されるかどうか等も勘案	12	12.4

表 3-14 より、改訂頻度・時期で最も多いのは「(市の) 分別区分の変更時」であり、「変更点が多くなったら」を選択した市の多くは「分別区分の変更時」も選択していた。また「数年ごと」を選択した市のうち、13 市が 1 年ごと、5 市が 2 年ごと、2 市が 5 年ごとと回答している。このことから、定期的な改訂時期を定めている市は少なく、分別区分など大きな変更点があった際などに合わせて改訂をする市が多いといえる。

3-5-9 市民への配布方法

早見表等の市民への配布方法を表 3-15 に示す。

表 3-15 早見表等の市民への配布方法(n=97)

市民への配布方法	具体例	回答数	率(%)
市のHPへ掲載		84	86.6
市役所に設置		84	86.6
広報と一緒に配布		58	59.8
イベントで配布		29	29.9
その他	転入手続きの際、窓口担当部署で配布 (18) 全戸配布 (9) 市民センター・環境クリーンセンター・コミセン・各支所・公民館等の公共施設に配置 (9) 自治会、地区の役員に依頼、衛生委員を通して町会毎に配布 (3) 要望があればその都度配布 (3) 毎年全戸配布のごみリサイクルカレンダーに掲載 (2) アパート・マンションは自治会に加入していない人が多いため、管理会社・地元の不動産業者に配布を依頼 (2) 外国人の来店が多い店舗へ設置 全戸配布の市民生活ガイドやNTT発行の「タウンページ」に掲載 ごみと環境のべんり帳を作成し、各世帯に配布 収集品目、収集日、制度改正など大きく変更した際 ごみ分別看板を、各自治会の集積所に設置 出前講座にて配布	37	38.1

表 3-15 より、市民への配布方法で最も多いのは「市役所に設置」「市の HP へ掲載」であっ

た。しかし「広報と一緒に郵送」「その他」の回答数も多かった。「その他」では、転入手続き時に手渡し、アパート管理者や自治会に依頼、役所支所など公共施設にて配布との回答があった。また全戸配布と回答している市も、毎年配布・大きく変更があった年のみ配布・初回作成時に配布という回答があった。以上から、ほとんどの市では複数の方法で市民に配布しており、全市民への行き届くよう配慮していることがわかった。しかし費用の問題のためか、全戸配布にまでは至っていない市もあるようだ。

3-5-10 市民からの意見・質問・要望

早見表等についての市民からの意見・質問・要望について表 3-16 に示す。

表 3-16 早見表等についての市民からの意見・質問・要望

見たい目・見やすさに関する要望	筆者による分類
高齢者にもわかりやすいように、文字を大きくしてほしい(8)	文字を大きくしてほしい
地図や図表を大きくしてほしい	地図や図表を大きくしてほしい
カラーで表示するなど、見やすくしてほしい	カラーで表示してほしい
形状に関する要望(使いやすさ・使用感)	
いちいち開けるのが面倒なので、ポスターを作成してほしい(3)	ポスターを作成してほしい
スペースが必要だがら要旨をまとめて1枚にして欲しい	
冊子より、チラシのほうが需要がある(冷蔵庫等に貼ることができるため)	詳細な冊子を作成してほしい
早見表をインターネットだけでなく冊子にしてほしい	
より詳しいごみの出し方・分け方(分別早見表)を発行してほしい(3)	早見表を作成してほしい
内容に関する要望	
市民からの問い合わせがある品目をすべて掲載してほしい(8)	早見表の品目について、掲載されていないごみの問い合わせ
分別早見表に載っていない品目についての問い合わせ(6) (例:ペンキが入っている缶、ガスが残っているガスボンベ等)	
危険なごみ(割れたガラス等)、有害ごみ(スプレー缶等)がわかりにくい	収集しないごみの処理方法
処理困難物の処理方法や処理業者を掲載してほしい(3)	
家電リサイクル法の手続き方法等	詳細なルールが知りたい
このごみはどの区分になるのか、どういった排出方法になるのか	
可燃物と不燃物の複合物品の処理について、判断基準を示してほしい	プラスチックごみについて
より詳しく具体的なルールを掲載してほしい(3)	
プラスチック製容器包装の分別の仕方がわかりにくい	プラスチックごみについて
チューブ型のプラ容器の中身をきれいに取り除くのは無理なのは	
配布に関する要望	
変更点があった場合、改訂した最新版を配布してほしい(4)	全戸配布の依頼 最新版の作成の依頼
全戸配布してほしい(3)	
こまめな変更や、変更点を反映した冊子を作成してほしい	
どこでも受け取れるようにしてほしい	
年1回ペースでこまめに更新し、市民に全戸配布してほしい	配布場所の周知
どこで配布しているか、もっと周知してほしい	
その他	
分かりづらい、もっとわかりやすくしてほしい(4)	
索引のページを増やしてほしい	
2種類以上の品名を持つ製品について、1つの品名からしか調べられないので、改善してほしい	
カレンダーが大きい	

表 3-16 より、市民からの意見・質問・要望には、大きく分けて「見た目・見やすさに関する要望」「形状に関する要望（使いやすさ・使用感）」「内容に関する要望」「配布に関する要望」「その他」の5種類に分けられる。

「見た目・見やすさに関する要望」では、高齢者にも分かりやすいように文字を大きくしてほしい、地図・図表を大きくしてほしい、カラー表示してほしいという意見があった。やはり文字だけではわかりにくいいため、市民は見てすぐにわかるような工夫を求めていることがわかる。

「形状に関する要望（使いやすさ・使用感）」では、ポスターの作成依頼、詳細な冊子の作成依頼、早見表の作成依頼があった。このことから、人によって使用方法や目的が異なるため、求める早見表等の形状にも差があることがわかる。

「内容に関する要望」は、意見としては最も数が多かった。早見表の品目についての要望や掲載されていないごみについての問い合わせ、収集しないごみの処理方法や詳細なルールの掲載を求める声が多い。

「配布に関する要望」では、全戸配布の依頼や配布場所の周知の依頼があった。

3-5-11 市民から好評・不評な部分

早見表等について市民から好評な部分について表 3-17、市民から不評な部分について表 3-18、賛否両論な意見を 3-19 に示す。

表 3-17 早見表等について市民から好評な部分

好評	筆者による分類
写真、イラスト等が多くわかりやすい(6)	見やすさについて
カラーなのでわかりやすい	
一目で調べたい品目が検索できる分かりやすいデザイン	
ポスター形式なので、冷蔵庫・壁等に貼っておける(2)	形状について
カレンダー裏面の情報が、上側2点をとめてめくると見やすい方向	
分別区分と収集曜日(カレンダー)が同時に確認できる	
カレンダーに変わり、収集日がいつなのかが分かりやすい	早見表について
50音順に掲載していることが見やすい(6)	
早見表が便利だ(4)	
品目毎に分別が掲載されているためわかりやすい	その他
多くの品目が記載されているのでわかりやすい	
分別の参考になった(4)	
詳しく説明されていて分かりやすい(3)	その他
新たな品目を加える場合、すみやかに市民に情報提供してもらった	
市外転入者から、分別方法がわかりやすいと言われている	
外国語版(英語・中国語・韓国語)がある	

表 3-17 より、市民から好評な部分としては4種類挙げられた。「見やすさについて」「形状について」「早見表について」「その他」である。

「見やすさについて」では、カラーや写真、イラストがあるとわかりやすいという意見が多

かった。「形状について」では、冷蔵庫や壁に貼っておけるポスター形式が人気なことがわかった。「早見表について」では、早見表が便利であり、特に50音順に多くの品目が掲載されている点が好評なようだ。

表 3-18 早見表等について市民から不評な部分

不評	筆者による分類
字が小さい, 多い (12)	見やすさについて
例示やイラストが少ない (2)	
収集カレンダーの色がわかりにくい	
冷蔵庫に貼れるサイズ・形のため、内容を細かく掲載できない (2)	形状について
貼ったら裏が見えない	
様々な情報が掲載されているため、冊子が分厚い	
早見表の品目が少ない (8)	内容が少ない
ルールを細かく載せてほしい (2)	
内容が詳しくないので、役所に電話しないとわからない	
内容が多すぎて分かりにくい, 調べるのが面倒 (2)	内容が多い
内容が難しすぎる	
分別の説明が分かりにくい (2)	
冊子に載っていないもの、粗大ごみ等の分別がわかりにくい (2)	わかりづらい
カレンダーの見方がわからない	
何が市で収集できないのか分かりづらい	
商標等が理由で、マイナーな品名で掲載されている (2) (例: タッパープラスチック製保存容器など)	その他
制度等の変更に対応できていない (2)	
色あせが早い	
誤字・脱字が多い	
索引部分の品目内容が減り、わかりづらい	
他の地域の収集曜日が記載されているため、間違えることがある	
早見表通りごみを出しているのに、回収されなかった	

表 3-18 より、市民から不評な部分としては「見やすさについて」「形状について」「内容が少ない」「内容が多い」「わかりづらい」「その他」の6種類が挙げられた。

「見やすさについて」では、字が多い・小さいという意見が多かった。「形状について」では、ポスター形式のため細かい内容が掲載できないという意見と、反対に掲載情報が多いため冊子が分厚いという両極端な意見が挙げられた。また内容についても、「内容が少ない」ため役所に電話しないとわからない、という意見と「内容が多い」ため調べるのが面倒だという両極端な意見が挙げられた。

表 3-19 早見表等について賛否両論の意見

賛否両論	
ごみによって、分かりやすいとの意見と、分かりづらいとの意見がある	} 同じ市
ポスターは冷蔵庫等に貼っておけるが、細かなルールの記載がない	
同じ表現でも人により、分かりやすいと分かりにくいという意見がある	
掲載数が多く調べるのが面倒なので、品目を減らすべき 調べたい品目が掲載されていないので、品目を増やすべき	

表 3-19 より、同じ表現でも人によって理解度が異なることや、品目の数に対する要望が異なるという意見があった。このことから、市民全員に一律な情報を提供するのではなく、市民が自分に必要な情報を選び使用できることが重要だと考えられる。

3-5-12 今後の課題

早見表等についての今後の課題について表 3-20 から表 3-25 に示す。

表 3-20 配布方法に関する今後の課題

配布について	筆者による分類	
紙媒体に偏重しているため、市HPにおける周知方法の充実を図りたい(2)	インターネット	媒体
費用の問題があるため、ホームページ等を活用したい		
全員がインターネットを閲覧できるとは限らないので、印刷物も提供したい(3)	紙	
外国人への周知が十分でないため、その方法を検討している(3)	外国人	対象
韓国語版を作りたい(現在は、英語版・中国語版のみ)		
高齢者に配慮し、文字の大きさや色遣い等に配慮する(4)	高齢者	
高齢者への対応(分別がわからない人が多い)		
全ての世帯に冊子が行き届いているかが不明(2)	配布状況	
(自治会非加入の世帯、賃貸の共同住宅、学生などは把握が難しい)		
市民へどう配布していくか		

表 3-20 より、配布方法に関する今後の課題では、配布媒体と配布対象に関する意見、配布状況に関する意見があった。

配布媒体に関する課題は、費用の関係から詳細な情報を掲載できるインターネットを活用したいという意見と、市民全員のインターネット環境が整っているとは限らないため紙媒体を提供したいという意見があった。このことから、配布方法はインターネット・紙媒体のどちらかに限るのではなく、両方活用することが重要だといえる。

配布対象に関する課題は、外国人への対応と高齢者への対応を課題と考えている市があった。日本では今後ますます高齢化が進むことが予想されるため、高齢者への対応は重要な課題となることが予想される。

配布状況に関する課題は、配布はしているものの自治会非加入の世帯など全ての世帯に冊子が行き届いているか、が把握ができないという意見があった。確実に市民全員に配布できる仕組みが必要だといえる。

表 3-21 作成・改訂に関する今後の課題

作成・改訂について	筆者による分類
改訂のたびに毎年全戸配布する予算がない(4)	予算
低コストで更新できるか(2)	
経費の削減(広告掲載の検討等)(2)	
費用の関係で詳細な情報を掲載したものを作ることは困難	
ホームページは適宜追加更新できるが、冊子は難しい(2)	改訂
法律等の変更点を反映した冊子を作成できていない(2)	
毎年改訂していないため、法律への順応や細かな修正が随時できない(2)	
改定頻度の見直し	

表 3-21 より、作成・改訂に関する今後の課題では、作成時の予算の関係で全戸配布や十分なスペースの確保が難しい現状があるとわかった。「なお改訂の度に全戸配布する予算がない」と回答した4市の人口は、最大812,286人、最小89,560人であった。よって市の人口規模と予算についてはあまり関係がないようである。

また改訂に関する課題としては、細かな修正や法律への対応が紙媒体では素早くできないことが挙げられる。冊子に比べインターネット上の情報は素早く更新でき、またコストもかからないことから、インターネットでの啓発に力を入れることは有効であると考えられる。

表 3-22 情報発信方法に関する今後の課題

情報発信	筆者による分類
全戸配布しているが、分別やごみ出しの間違いや問い合わせが多い(6)	問い合わせが多い
問い合わせの内容は同じであるため「Q&A」などを作成したい	
新しい情報発信の手段や方法を考える必要がある(3)	新たな手段
まずは早見表等を活用してもらえようになりたい(5)	分別への関心
転入者や外国人、子どもたちへの啓発	
いかに市民にごみの分別に関心を持ってもらえるか	

表 3-22 より、情報発信方法に関する今後の課題では、早見表等を作成・配布しているにも関わらず、問い合わせが多いという意見があった。よって、まずは早見表等を見てもらえるよう工夫することや、新たな情報発信の手段を考案することは今後の重要な課題だといえる。

表 3-23 作成時の苦勞に関する今後の課題

作成時の苦勞	筆者による分類
新たな施策に伴う分別、回収に対応していく必要があるため、わかりやすい資料となるように工夫する(2)	大変
新たな製品が生まれ、それらの分別区分を判断しなければならない(2)	
新しく出る素材の分別方法の周知(2) (シリコン製品、紙製の緩衝材など)	
品目は日常生活で廃棄される、極一般的なものとどめる(2) (品目が多いほど分別区分だけを求め、理解してもらえない傾向がある)	難しい
全ての市民を満足させる早見表は、なかなか作成が難しい(2)	
地域によって収集方法が一部異なるため、記載事項が統一されていない	
全ての品目について早見表の情報のみで分別してもらうのは難しい	
こちらは分かって作成しているが、それがどこまで伝わるかが課題	
ごみの名称等、世代間で相違する情報への対応	
同じ表現でもわかる人とわからない人がいるため、表現が難しい	他部署
いかに他部署と連帯して情報を掲載できるか	

表 3-23 より、作成時の苦勞に関する今後の課題では、日々新たな施策が進められ、また多様な製品・素材が生み出されるため、それらについての対応を考え実施していくことが挙げられた。また、同じ内容でも賛否両論の意見が寄せられることや、詳しく情報を提供するほど理解には至らないこと、早見表等だけですべてを理解してもらうことが難しいという意見があった。

表 3-24 見やすさとわかりやすさに関する今後の課題

見やすさとわかりやすさ	筆者による分類
「ごみ」という言葉が示すものが多岐に渡るため、どこまで掲載するか(4)	バランス
限られたスペースで、詳しく記載する部分と簡潔に記載する部分のバランス(2)	
見た目と情報量のバランスをどうしていくか	
限られた紙面では、ケースバイケースの分別方法が書けない (複合素材の製品は、簡単にばらせるかどうかで分別が変わる)	わかりやすさ
さらに見やすく、使いやすい、分別がわかりやすい分別表にしていく(18)	
ごみの分別間違いを少しでも減らせるような紙面の作成(2)	

表 3-24 より、見やすさとわかりやすさに関する今後の課題では、早見表等の限られたスペースを有効に利用するため、見た目と情報量のバランスが重要だという意見があった。詳しく充実した内容の追及も必要だと考えられるが、市民にとっての見やすさ・使いやすさの配慮し、詳しく記載する部分と簡潔に記載する部分をわけることも重要であるといえる。

表 3-25 情報量に関する今後の課題

情報量	筆者による分類
スペース等の関係で全部掲載できていない(3)	精査
掲載すべき項目・品目を精査する必要がある	
市民の方から質問の多い品目を追加するなどし、内容の充実を図る(3)	充実
リサイクルに関する法整備による分別方法、収集方法などの対応(3)	
市で処理できないごみに関する処理方法などの、詳細な情報の掲載方法(2)	
商品の多様化に則した早見表の作成が必要(2)	
民間で行っているリサイクル(バイクやボタン電池など)の啓発	
時代に即した内容に随時見直していくことが必要	
排出時の注意事項について大きく表示し、収集に関する苦情を減らしたい	
問い合わせの多いごみは啓発チラシを作成し、分別の徹底を図る	

表 3-25 より、情報量に関する今後の課題では、早見表等の情報量については精査したいという意見と充実させたいという意見に分かれた。精査したい主な理由は、スペースに限りがあることである。そのため、問い合わせの多い情報や間違えやすい情報を掲載していくことが必要だといえる。

充実させたい内容としては、排出時の注意事項、処理困難物の処理情報、民間で行われているリサイクル情報などが挙げられた。このことから、早見表の品目など情報量を増やしたいと考える市は多いが、予算・スペースの関係もありむやみに情報量を増やすだけでなく必要な情報を選択し掲載していくことが必要だと考えられる。

3-6 まとめ

本章では、各調査対象地へのアンケート調査によって、家庭ごみ分別早見表等が作成された経緯、改訂される経緯、市民からの意見等を調査した。

家庭ごみ分別早見表等が作成された理由は、「分別が市民にとって難しいため」が最多であった。作成当時の状況は、役所内の担当者を中心とした1～5人という少人数かつ0.5ヶ月～3ヶ月という短期間で作成している市がほとんどであった。作成方法としては、作成の際に他市の表の内容・構成、ごみの品目を参考にしたり、問い合わせの多いごみを掲載することで市民の声を参考にしているという市がほとんどであった。作成時に工夫したことは「ものの呼び方」が最多であった。しかし「その他」という回答も多く、具体的な回答は見た目に関することと内容に関することの大きく2つに分けられ、内容は多種多様であった。作成時に苦労したことは「品目の選出」が最多であり、また半数近くが「分別基準の設定」も選択している。早見表等作成前と比較した時の効果は28市中27市の担当者が感じており、具体的には「(市民からの)問い合わせの減少」が最多であった。

改訂時期・頻度で最も多いのは「(市の)分別区分の変更時」であり、「変更点が多くなったら」を選択した市の多くは「分別区分の変更時」も選択していた。市民への配布方法は「市役所に設置」「市のHPへ掲載」という回答が最多であった。

市民からの意見・質問・要望は、「見た目・見やすさに関する要望」「形状に関する要望(使いやすさ・使用感)」「内容に関する要望」「配布に関する要望」「その他」の5種類の意見が挙

げられた。市民から好評な部分は、「見やすさについて」「形状について」「早見表について」「その他」の4種類の意見が、反対に市民から不評な部分は、「見やすさについて」「形状について」「内容が少ない」「内容が多い」「わかりづらい」「その他」の6種類の意見が挙げられた。また同じ表現でも人によって意見が正反対であるなど賛否両論であるという意見も挙げられた。今後の課題は、「配布方法」「作成・改訂について」「情報発信」「作成時の苦勞」「見やすさとわかりやすさ」「情報量」の6種類の意見が挙げられた。

第四章 家庭ごみ分別早見表等の特徴と市民評価との比較

4-1 はじめに

本章では、第2章で調査した調査対象地の家庭ごみ分別早見表等と第3章で調査した調査対象地へのアンケート結果を比較し、わかりやすい早見表等の特徴を明らかにする。

4-2 目的

本章では、第2章で調査した調査対象地の家庭ごみ分別早見表等と第3章で調査した調査対象地へのアンケート結果を比較することで、わかりやすい早見表等の特徴を明らかにすることを目的とする。

4-3 調査方法

4-3-1 調査方法

第2章でまとめた調査対象地の家庭ごみ分別早見表等の特徴と第3章でまとめた調査対象地へのアンケート結果(問19~問21)を比較する。

4-3-2 調査項目の選定

第3章でまとめた調査対象地へのアンケート結果のうち、「問19 市民からの意見・質問・要望」「問20 市民から好評・不評な部分」「問21 今後の課題」の回答の中から、第2章でまとめた調査対象地の家庭ごみ分別早見表等の特徴と比較可能な項目を選定した。表4-1に調査項目と回答内容、回答数を示す。

表4-1 調査項目と回答内容、回答数

調査項目	回答内容	回答数
掲載数	掲載数が少ない, もっと多くの品目を載せてほしい	19
	多くの品目が掲載されている	1
詳しさ	ルール等の内容が詳しくない	7
	詳しい情報が掲載されている	3
わかりやすさ	わかりづらい, わかりやすくしてほしい, 難しい	6
	わかりやすい	4
質問	住民からの質問が多い	7

表4-1より、第4章の調査項目は「掲載数」「詳しさ」「わかりやすさ」「質問」の4項目である。

4-3-3 市名の表示方法

北海道・東北地方に属する市をA, 関東地方に属する市をB, 中部地方に属する市をC, 近畿地方に属する市をD, 中国四国・九州・沖縄地方に属する市をEと表示する。地方に属する市が複数ある場合は、それぞれの地方の中で地方公共団体コード順¹⁾に並べ、1から順に番号

を振る。例えば関東地方に属する3番目の市は、B3市と表示される。

4-4 調査結果

4-4-1 早見表のごみの掲載数

早見表のごみの掲載数についての回答内容と市数を表4-2に示す。なお掲載数が少ないとは、掲載数が少ない、掲載数を増やしてほしい、調べたい品目が載っていないといった内容の回答をまとめた。

表4-2 早見表のごみの掲載数についての回答内容と市数

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
少ない(19市)	107	1362	742.5	
多い(1市)	107	107	107	

表4-2より、掲載数が少ないという意見があるのは19市で、それらの市のごみの掲載数の平均は742.5個であった。反対に掲載数が多いという意見があるのは1市でごみの掲載数は107個であった。掲載数が多いと評された市よりも掲載数が少ないと評された市のほうが掲載数が多いこと、また第2章より全調査対象地の掲載数の平均は684.6個であることから、実際の掲載数と市民からの意見には相関がないといえる。

4-4-2 早見表等の詳しさ

詳しさについて回答があった市を各市のごみの掲載数と比較し、結果を表4-3に示す。詳しくないとは、ルールを細かく掲載してほしい、内容が詳しくないといった内容の回答をまとめた。

表4-3 早見表等の詳しさについての調査結果

詳しくない(7市)	A2市	A4市	A5市	B4市
	101	109	121	976
	C3市	D3市	D6市	平均
	1206	101	825	491.3
詳しい(3市)	B2市	B3市	B8市	平均
	1446	932	1931	1436.3

表4-3より、詳しくないという意見があるのは7市で、それらの市のごみの掲載数の平均は491.3個であった。また、詳しくない市の4市は掲載数が100前後である。全調査対象地のごみの掲載数の平均は684.6個であることから、詳しくない市のごみの掲載数の平均は、全体の平均より低いといえる。反対に詳しいという意見があるのは3市で、それらの市のごみの掲載数の平均は1436.3個であった。これは詳しくない市の2.9倍、全対象地の2.1倍にあたり、

著しく多いといえる。このことから、掲載数が多いほど市民は詳しいと感じる傾向があるといえる。

4-4-3 早見表等のわかりやすさ

わかりやすさについて回答があった市を、各市の絵の効果、家電リサイクル法対象品目の排出方法、収集できないごみの問い合わせ先、早見表の有無、早見表の品目ごとの色分けの有無と比較した。わかりやすさについての調査結果を表 4-4 に示す。

表 4-4 早見表等のわかりやすさについての調査結果

項目	市名	絵の効果	家電リサイクル法の排出方法	収集できないごみの問い合わせ先	早見表の有無	早見表品目ごとの色分け
わかりづらい (6市)	B2市	○	○	×	○	×
	B5市	×	×	×	×	—
	B6市	×	×	×	○	×
	D3市	○	○	×	×	—
	D6市	×	×	×	○	×
	D8市	×	○	×	×	—
わかりやすい (4市)	A1市	○	○	△	○	○
	C9市	○	○	△	○	○
	D2市	○	○	△	○	○
	E2市	×	○	×	○	○

表 4-4 より、わかりづらいという意見があるのは 6 市で、わかりやすいという意見があるのは 4 市であった。表中の○は該当する、△は一部該当する、×は該当しないを意味する。

効果的な絵であるかについて、わかりづらい市の 6 市中 4 市が絵が効果的ではなく、わかりやすい市の 4 市中 3 市が絵が効果的である。このことから、市民はわかりやすい絵を掲載している市に対し、わかりやすいという意見を持つ傾向があると言える。

家電リサイクル法対象品目の排出方法について、わかりづらい市では半数が記載しておらず、対してわかりやすい市は全て記載している。このことから、市民は家電リサイクル法対象品目の排出方法を掲載している市に対し、わかりやすいという意見を持つ傾向があると言える。

収集できないごみの問い合わせ先について、わかりづらい市は全て掲載しておらず、わかりやすい市は 4 市中 3 市が一部情報を掲載している。問い合わせ先が掲載されていないと市民自ら販売店等に問い合わせる必要が生じるためか、問い合わせ先を掲載している市がわかりやすいという意見を持たれる傾向があると言える。

早見表の有無と品目ごとの色分けについて、わかりづらい市では 6 市中 3 市が早見表を作成しているが、品目ごとの色分けを行っている市はない。対してわかりやすい市では、全ての市が早見表を作成しており、また品目ごとの色分けを行っている。このことから、市民にとって早見表はわかりやすく、特に品目ごとに色が分けられている表がわかりやすいと言える。

4-4-4 市に寄せられる質問の多さ

市に寄せられる質問の多さについて回答があった市を、各市のごみの掲載数、収集できないごみの問い合わせ先の有無、収集できないごみの排出方法の有無と比較し、調査結果を表 4-6 に示す。

表 4-5 市に寄せられる質問の多さについての調査結果

項目	市名	ごみの掲載数	収集できないごみの問い合わせ先	収集できないごみの排出方法
質問が多い (7市)	A3市	2099	△	△
	A4市	109	×	×
	C8市	204	×	×
	C10市	1141	△	△
	D5市	128	×	×
	E3市	2127	×	×
	E4市	140	×	×

表 4-5 より、ごみの掲載数は最小 109 から最大 2127 までであるため、ごみの掲載数と市に寄せられる質問の多さにはあまり相関は見られないようである。

収集できないごみの問い合わせ先・排出方法の有無は、一部情報を掲載している市が 2 市、掲載していない市が 5 市である。しかし調査対象地全体でみると、問い合わせ先を掲載していない市は 148 市中 118 市の 79.7%、排出方法を記載していない市は 148 市中 136 市の 91.9%に上るため、7 市特有の特徴とは言えない。よって「市に寄せられる質問が少ない」と回答した市がなかったため比較ができないが、収集できないごみの問い合わせ先・排出方法の有無も市に寄せられる質問の多さにはあまり相関がないと考えられる。

以上から、早見表等の特徴と市に寄せられる質問の多さにはあまり相関がないようである。どんなに詳細な情報を掲載しても早見表等だけで市民の疑問の全てを解決することは難しいのだと考えられる。

4-5 ヒアリング調査

4-5-1 ヒアリング対象者の属性・ヒアリング日

参考として、京都市の住人 5 名、彦根市の住人 5 名の計 10 名に対しアリング調査を行った。ヒアリング対象者の属性・ヒアリング日については表 4-6 の通りである。

表 4-6 ヒアリング対象者の属性・ヒアリング日

彦根	性別	年代	居住歴	ヒアリング日
1	男	20	～1年	2014/2/16
2	女	20	～10年	2014/2/16
3	女	30	11年～	2014/2/16
4	男	30	～1年	2014/2/16
5	男	20	～10年	2014/2/24
京都	性別	年代	居住歴	ヒアリング日
1	女	50	11年～	2014/2/13
2	女	40	11年～	2014/2/13
3	女	50	11年～	2014/2/13
4	男	60	11年～	2014/2/14
5	女	40	～10年	2014/2/14

4-5-2 調査結果

ヒアリング結果を表 4-7 に示す。

表 4-7 ヒアリング結果

彦根	分別状況	分別の参考	早見表を知っている	早見表の使用	使用しない理由	分別が分からない時
1	△	ごみ袋	×	×	あまり気にしない	なんとなくで分別する
2	○	ポスター	○	わからないとき	だいたいわかる	分別に迷うことがない
3	○	特になし	○	×	変更の時には見た	
4	○	ポスター	○	○		
5	△	特になし	×	×	あまり気にしない	なんとなくで分別する
京都	分別状況	分別の参考	早見表を知っている	早見表の使用	使用しない理由	分別が分からない時
1	○	昔からの感覚	×	×	だいたいわかる	困ったことはない
2	△	昔からの感覚	○	×	だいたいわかる	困ったことはない
3	○	ポスター	○	わからないとき		
4	○	特になし	×	×	あまり気にしない	
5	○	ポスター	○	わからないとき		

表 4-7 より、10 名中 7 名がごみの分別を意識し行っていたものの、ごみ分別早見表等を知っているのは 6 名、使用しているのは 4 名であった。また使用している 4 名も、分別区分がわからないものを調べるときにのみ使用している人が多く、日常的に使用する習慣はあまりないといえる。早見表等を使用していない 6 名に分別区分がわからない時の対処法を聞くと、「なんとなくの感覚で分別してしまう」「分別区分に迷うこと・困ることはない」とのことであった。以上のヒアリング調査から、市民には分別早見表等を日常的に使用する習慣はほとんどなく、使用する場合は分別区分に迷う場合のみであるといえる。

4-6 まとめ

本章では、調査対象地の家庭ごみ分別早見表等と調査対象地へのアンケート結果を比較し、わかりやすい早見表等の特徴を明らかにした。調査項目は「掲載数」「詳しさ」「わかりやすさ」「質問」の 4 項目である。

早見表のごみの掲載数が少ないという 19 市の平均は 742.5 個で、ごみの掲載数が多いという 1 市は 107 個であった。また、全調査対象地のごみの掲載数の平均は 684.6 個である。このこ

とから、実際の早見表のごみの掲載数と市民からの意見には相関がないと言える。

詳しくないという7市の早見表のごみの掲載数の平均は491.3個で、詳しくないという4市のごみの掲載数は全て100前後であった。このことから、掲載数が多いほど市民は詳しいと感じる傾向があるといえる。

わかりやすいという4市はわかりにくいという6市と比較し、絵の効果がある、家電リサイクル法対象品目の排出方法・収集できないごみの問い合わせ先が記載されている、早見表がある、早見表が品目ごとに色分けされている、という特徴があった。

市に寄せられる質問が多い7市は、早見表のごみの掲載数が最小109から最大2127までと大きく差があった。収集できないごみの問い合わせ先・排出方法の記載がないという特徴もあるが、記載している市は少ないため、7市特有の特徴とは言えない。よって市に寄せられる質問の多さと各市の早見表等の特徴とはあまり相関がないと考えられる。

第五章 結論

5-1 本研究の結論

本研究の目的は、以下の2点である。

- 1) 家庭ごみ分別早見表等の形態や掲載されている内容を明らかにすること
- 2) 家庭ごみ分別早見表等が作成・改訂された経緯を明らかにすること
- 3) わかりやすい家庭ごみ分別早見表等の特徴を明らかにすること

これらの目的について結論をまとめる。

5-1-1 目的1の結論

目的1：家庭ごみ分別早見表等の形態や掲載されている内容を明らかにすること

調査対象地である150市の家庭ごみ分別早見表等を収集・分類し、それぞれの特徴を調査した結果、以下の4点が明らかになった。

- 1) 150市中、早見表は125市、ポスターは市が91市、インターネット上の検索システムは8市、外国版の早見表等は37市が作成していた。
- 2) 早見表のごみの掲載数は、最大2770個、最小39個、平均は684.6個であった。
- 3) 125市中112市が早見表の品目ごとに詳細なルールを記載していた。
- 4) 収集できないごみの問い合わせ先を掲載しているのは30市、品目ごとの排出方法を記載しているのは12市であった。

5-1-2 目的2の結論

目的2：家庭ごみ分別早見表等が作成・改訂された経緯を明らかにすること

各調査対象地へのアンケート調査によって家庭ごみ分別早見表等が作成された経緯、また改訂される経緯を調査した結果、以下の3点が明らかになった。

- 1) 家庭ごみ分別早見表等が作成された理由は、「分別が市民にとって難しいため」が最多であった。
- 2) 多くの市が役所内の担当者を中心とした少人数かつ短期間で作成している。
- 3) 改訂時期・頻度は「(市の) 分別区分の変更時」が最多であった。

5-1-3 目的3の結論

目的3：わかりやすい家庭ごみ分別早見表等の特徴を明らかにすること

市民は早見表のごみの掲載数が多いほど詳しいと感じる傾向がある。また、絵の効果がある、家電リサイクル法対象品目の排出方法・収集できないごみの問い合わせ先が記載されている、早見表がある、早見表が品目ごとに色分けされている、という市は市民がわかりやすく感じる傾向がある。

5-1-4 研究全体の考察

83%の市が早見表を、60%の市がポスター状のものを作成しており、また市民からの好評な意見も多かった。市民の多様なニーズに応えるため、複数の情報物の作成は有効だと言える。市民にとってわかりやすい早見表等の特徴は、絵の効果がある、家電リサイクル法対象品目の排出方法・収集できないごみの問い合わせ先が記載されている、早見表がある、早見表が品目ごとに色分けされている、というものである。しかし多くの情報を掲載していても市民からの質問は多い場合もある。しかし家庭ごみ分別早見表等を作成することによって、市で統一された回答ができる等の効果もあるため、作成することには意義があるといえる。

5-2 今後の課題

市民評価は、アンケートの記述欄をまとめたものである。そのため対象となる市・回答が少なかった。またアンケートの回答者が市民の率直な意見を把握しているとは限らないため、偏りのある結果となってしまった。実際に早見表等を使用している市民の意見を基に調査を進めるべきである。

また、「わかりやすい」や「詳しい」といった抽象的な基準を基に調査を進めたため、筆者の主観に左右された結果になっている可能性がある。具体的で主観に左右されない基準での調査が必要である。

謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご協力いただきました全国の市役所のご担当者の皆様に、深く感謝を申し上げます。アンケート票の内容が多いにも関わらず、多くのご担当者様から大変丁寧な回答をいただきました。本当にありがとうございました。また、急なお願いにも関わらずヒアリング調査にご協力いただきましたご近所の方、アルバイト先の皆様にも深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

査読をして頂きました秋山先生には的確なご指導や助言をいただき、大変感謝しております。住民側の意見という違った観点から自分の研究を見直すことができました。

金谷先生には二年半以上の長い間ご指導いただき、大変お世話になり心から感謝しております。本当にありがとうございました。卒業論文が行き詰った時には的確なアドバイスをしていただき、卒論が進まずさぼりがちな時にも常に優しくご指導をしていただきました。本論文が無事に完成することができたのは、先生のおかげです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、とても楽しく充実した大学生活を送ることができ、無事卒業ができることを嬉しく思います。貴重な大学生活を送る機会を与えてくれた家族、仲良くしてくれた友人に感謝したいと思います。ありがとうございました。

本研究を進める中でお世話になった皆様に改めて、心より感謝申し上げ、本論文を終わります。

2014年2月28日

吉光寺里早